

# 特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 教育支援部 発行  
令和元年度 第4号（3月16日）

この冬は、朝晩は冷え込むものの比較的過ごしやすい日が多く、手袋などの防寒具の出番があまりないまま次の季節を迎えようとしています。一方では、世界中で猛威をふるっている感染症の影響は大きく、多くの学校が国からの要請を受けて休校措置を余儀なくされたり、家庭においては外出等を控えたりするなど、子どもたちを取り巻く環境が急激に変化しました。予定されていた卒業式や各教科の未習内容のことなど、あまりにも唐突な出来事に不安になっている子どもたちは少なくないでしょう。感染症に子どもたちが罹患しないようにするだけでなく、心のケアについても考えていく必要があると思います。一日も早く平穏な日常が戻りますことを心から願っております。

## 「ほめる」ということ

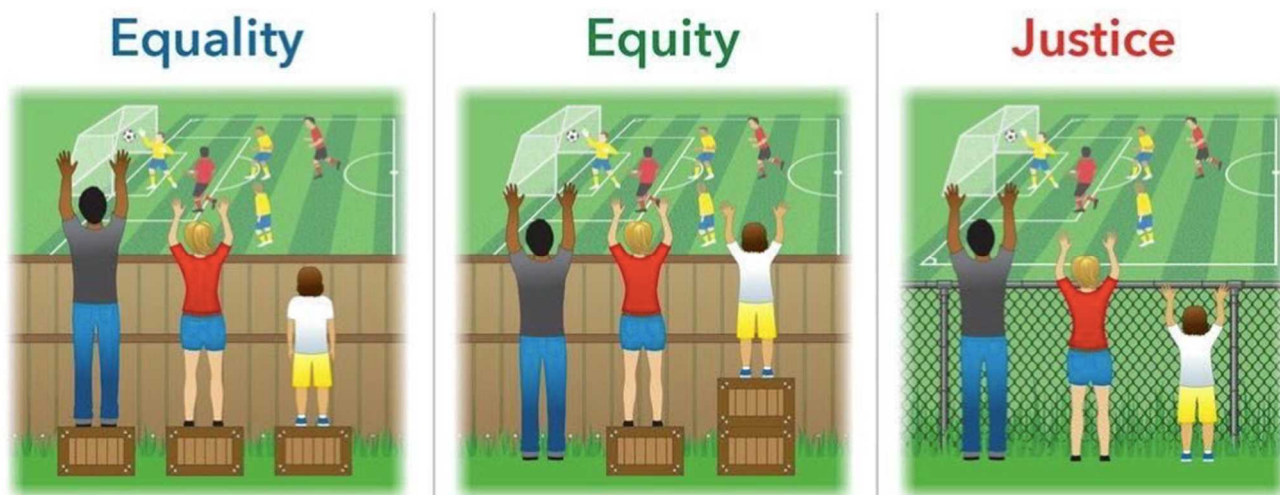
さて、「子どもをほめてのばす」とは教育現場のみならず、子育て全般においても昔から聞き慣れた言葉だと思えます。支援を必要とするかそうでないかに関わらず、「ほめる」ということは学校現場における基本であり、洗練させることが難しい技術でもあります。

しかしながら、子どもをほめ過ぎるのはよくないと懸念を持つ先生方は少なくないようです。ほめ過ぎることは甘やかすことであるかのように感じてしまい、つい出し渋ってしまうのかもしれませんが、また、教師の信念として児童に「規律ある行動」や「礼儀」を重んじる傾向があるようですが、規律や礼儀を重んじることと適切な行動に注目することは決して相反するものではありません。

教師の典型的な行動傾向として、子どものポジティブな行動よりも、おしゃべりや離席などの不適切な行動に注目してしまうということが明らかにされています。大勢の前でお話をされた時に、熱心に耳を傾ける人よりも居眠りやスマホをいじっている人の方に目がいてしまった経験があるのではないのでしょうか。また、大声による叱責に対して否定的な議論があるにも関わらず、なくなったとは言えません。このように、教師は子どもの不適切な部分に目がいきがちで、それに反応してしまうところがあるようです。そんな中で子どもを「ほめる」ということについて、意識的に取り組んでいく必要があると言えるでしょう。

子どもを「ほめる」に当たって、当該学年で期待される水準を意識するということは必要なことに違いありません。そのため、平等の観点からできている他の子どもと比較して、ほめることをためらうこともあります。一方では、平等とは全ての児童生徒を同じに扱うことではないということ

も理解しておく必要があります。(平等と公正の違いについてよく参考にされるイラストを以下に挿入しました) 視力や身長差に配慮した座席のことは当然に思われますが、一見分かりにくい心理的および発達の特徴についても理解しておく必要があります。例えば、頻繁に離席してしまう子どもがいつもより少しでも長く着席していることができた場合、肯定的な視点で注目することができれば十分「ほめる」ことができるでしょう。



一人ひとり「ほめる」べきポイントは違っていいのです。また、子ども一人ひとり課題が異なり、それを少しずつでも克服していくことがいかに大切で素晴らしいことであるかを、教師が周囲の子どもたちに広める働きかけを行うことで、そこから大いに学ぶことがあるのではないのでしょうか。結果としてできていなかったとしても、頑張っている子どものよいところを積極的に取り上げ、ほめることで周囲の子どもたちが得られるものがあるでしょう。不適切な行動よりも適切な行動に着目するという、できていないことよりもできていることに注目するという、そんな大切なことを教師が率先して行い提示することで、子どもたちの人間関係の形成において多大な効果が期待できると思われます。

また、次年度になりますが、ほめ方のポイントについても一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

参考：こころの科学 No. 196

(文責 清都)

#### 令和2年度の予定

学校見学会 6/18(木)

福祉事業所向け学校見学会 7/2(木)

小学部公開体験授業 6/10(水)、9/16(水)、10/16(金)

中学部公開体験授業 7/ 9(木)、9/17(木)、10/26(月)

※変更になる場合があります。新年度になりましたらホームページ等でご確認ください。